



ジュズカケハゼ（数珠掛鯨、*Gymnogobius castaneus*）

全長5cmのハゼ科の魚類。北海道から九州までの淡水に分布。  
婚姻色が出るのはメスで、黒色をまとったメスはオスをあお  
るような動作で求愛活動を行う。オスをめぐってはメス同士が  
激しい闘争を繰り広げることもしばしば。闘いに勝利したメス  
はオスとともに巣穴（オスがせっせと作る）に入り、産卵後に  
去っていく。巣穴にはオスだけが残って子育てをする。

高温に弱いため塘路湖では湧水の流れ込みで見られること  
が多い。絶滅寸前だったタンチョウが釧路湿原の厳冬期を越  
せたのはドジョウやトゲウオに加え、このジュズカケハゼも一  
役買っている。

湧水などにより、水の薄い部分がありますので

散策には注意してください。

# 塘路湖



## 塘路フィールドノート【11/15～12/14】

### 【野鳥】

少しずつ冬の気配がやってきて、気温低下にともない湖面が凍る場所もちらほら。本格的な冬将軍到来前の、栄養補給の拠点のようで渡り鳥たちが賑わいを見せていました。



ホオジロガモ (塘路湖)

北半球に広く分布し冬に来越する潜水ガモ。後頭部を背中まで付けて求愛する。カモ科



ケアシノスリ (塘路原野)

北海道では冬鳥。尾の黒い横縞がノスリと異なり判別できる。道RDB希少種。タカ科



オオバン (塘路湖)

結水が進んで浅く狭い湖岸で潜水できず、岸に上がったり水に入ったり。クイナ科



スズガモ (塘路湖)

海岸に近い湖沼では大群が見られる。丸飲みした貝を胃で貝殻を砕く。カモ科



ツグミ (茅沼)

主に冬鳥。林内の地面にも樹木の枝にもいて群れで飛び回る姿が見られる。ツグミ科



ユリカモメ (塘路湖)

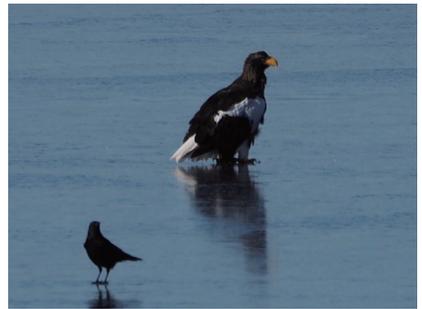
水面に浮いてたり低空を飛翔したりとよく目立つ。夏羽は顔が黒くなる。カモメ科



**ダイサギ (シラルトロ湖)**  
オオハクチョウの上を集団で飛翔。年々見かける個体数が増えている印象。サギ科



**オジロワシ (シラルトロ湖)**  
幼鳥が旋回している姿が頻繁に目撃されている。狩りに失敗している場面も。タカ科



**オオワシ (シラルトロ湖)**  
結氷した湖面にたたずんでいる。カラスにちょっかいされても微動だにせず。タカ科

## 【植物】

秋らしい秋がないまま今年の秋が終わり、冬到来の時期。晴天の日が多く、青空に植物たちの様々な姿に出会えます。紅葉が不作でもそれは見る側の人間の都合。植物は季節変化に対応しています。



**サワシバ (沢柴)**  
成長の早さから薪(柴)に使われたため、仲間のシデではなくシバと名付けられ。カバノキ科



**カラコギカエデ (鹿小木楓)**  
強風にも負けずにしぶとく種が離れない。カノコギカエデが転訛と考えられる。ムクロジ科



**オニグルミ (鬼胡桃)**  
冬芽が裸芽のために乾燥に弱いとされ湿地帯に多く分布。葉痕は猿や羊の顔とも。クルミ科

## ◎今シーズンも出現するか！？～氷丘脈

氷板同士が互いにぶつかり合い、押し上げられてできる水の丘。山脈状に連なる氷丘は「氷丘脈(ひょうきゅうみやく)」と呼ばれます。アイヌ語ではカムイパイカイノカ(神が歩いた跡)。気温の降下によって出来た氷の亀裂が再度結氷した後、気温の上昇に伴い膨張し、亀裂部分がせり上がる現象。諏訪湖では「御神渡り」と呼ばれますが、近年では起こらない冬が多いそうです。塘路湖ではここ数年同じ場所で発生しているので、今シーズンも期待したいところ。



昨シーズンの氷丘脈(塘路湖・2月)

## 🎄大盛況！！恒例のクリスマスリース作り🎄

11月30日(土)、4歳から80代までの幅広い年代が参加し、毎年恒例のクリスマスリースを作るイベントを行いました。ヤマブドウやツルウメモドキ、コクワなどの蔓植物を巻いて作った土台に、自然素材やオーナメント素材を接着して飾り付け、オリジナルのリースを作成しました。



ドライフラワーや針葉樹の葉のまとめ方など講師のアドバイスを受けながら作業に入ると、参加者のセンスが織り成す個性豊かなリースが徐々に形になっていき、トドマツやニオイヒバをはじめとする緑の素材を中心にしたものや、土台のつる植物の雰囲気を生かしたものなど、多種多様な雰囲気の作品が出来上がりました。

参加者 20名



## ◎絵の具づくり体験講座を開催しました

12月7日(土)、塘路湖周辺で収集した自然素材を使った絵の具づくりを体験できるイベントを開催しました。時間の関係上、2色が限界でしたが、子供たちを含めた参加者が協力して作業を進めました。外来種のセイタカアワダチソウと塘路湖周辺で拾ってきたオニグルミの実と、8月で廃業された富士温泉さんの温泉水を利用して、黄色とこげ茶色の優しい色を生み出しました。自然界にある色素は安定していないためドライフラワーにしたりと、色素を一度閉じ込める下準備が大変です。本番では鍋で煮出して、特別な手法で顔料に定着させて、さらに濾して粘度を調整し、素朴な色あいの絵の具を完成させました。出来た絵の具で絵を描いてイベント終了です。参加者15名



## 1月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### アイヌ刺繍講座

[日 時] 1月11日(土) 13時～15時  
[定 員・参加料] 15名 300円(材料費)  
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター  
◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 塘路湖氷上スノーシューで氷丘脈(御神渡り)へ

[日 時] 1月18日(土) 10時～12時  
[定 員・参加料] 10名 無料  
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター  
◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 湿原アニマルトラッキング

[日 時] 1月19日(日) 10時～12時  
[定 員・参加料] 15名 無料  
[開催場所] 温根内ビジターセンター  
◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで  
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 11/15(6:14,15:58). 11/30(6:32,15:48).12/14(6:45,15:47)

～指導員の独り言～

■かつてこの季節の風物詩と言えば「忠臣蔵」だった。だが、赤穂浪士討ち入り後の吉良邸が描かれている場面は少ない。真っ先に駆けつけ、邸内の死体の始末や負傷者の手当てをしたのは首を取られた吉良義央の次女(この時すでに故人)を娶っていた津軽黒石藩当主、津軽政トラ(トラは凹の下に儿)である。事件後の津軽政トラの人生は藩主としての政務を放り出し釣りに明け暮れ、日本初の釣り指南書「何羨録」を記すこととなる。この実話が大江戸釣りバカ日誌としての映像化に淡い期待を持ち続けたのだが、西田敏行さんの訃報が残念でならない。  
(M)

### 釧路湿原国立公園

#### 塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野  
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004  
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料